

第4回 浜松市基本計画検討委員会 議事録

開催日時：2024年10月16日（水）9:30～11:30

出席者：市長、斉藤薫委員、松島好則委員、中村勝彦委員、高木邦子委員、鈴木まり子委員、野中正子委員、久保田尚委員（オンライン）、石川春乃委員、北村武之委員、鈴木美枝委員、尾島俊之委員、池田孝行委員、笹原恵委員、吉田早織委員、森俊太委員、廣野篤男委員、東博暢委員

傍聴者：1名、報道関係者2名

開催場所：浜松市役所庁議室

次第

- 1 開会
- 2 策定スケジュールについて
- 3 議事・意見交換
 - (1) パブリック・コメントの結果報告について
 - (2) 浜松市総合計画基本計画（最終案）について
 - (3) 基本計画の参考資料について
- 4 閉会

（事務局 工藤企画調整部長）

皆さま、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから、第4回浜松市基本計画検討委員会を開会いたします。会議の開催にあたりまして、委員長であります中野市長よりごあいさつ申し上げます。

（中野祐介委員長）

本日は、浜松市基本計画検討委員会に大変皆さんお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

基本計画について検討を重ねてまいりましたこの検討委員会でございますけれども、今回が4回目で、一応一区切りとなります。直近6月に開催をいたしました第3回の検討委員会では、基本計画の素案、そして指標の考え方についてお示しをさせていただきました。その際、委員の皆さまから、計画の構成、用語など計画全般に関することや、分野別計画に対する具体的なご指摘など、大変多くの貴重なご意見をいただいたところでございます。

そういったご意見を基に、基本計画の素案を修正いたしまして、8月から9月にかけてパブリック・コメントも実施をさせていただきました。その際、市民の皆さまから約300件のご意見が寄せられました。

本日は、パブリック・コメントでいただいた内容とそれに対する市の考え方を報告させていただきますとともに、それらを踏まえて修正をいたしました最終案、基本計画をお示しさせていただきますこととしております。

今回は、最後の検討委員会となりますが、ご審議いただく計画案は、今後10年間市の進む方向を定める重要な計画でございます。改めまして、最終回にはなりますけれども、本日も皆様方から、豊富な経験知識を基に、さまざまな角度からの忌憚のないご意見をいただければと思っております。

われわれ浜松市としましても、市民の皆さんが、幸福を実感できる元気なまち浜松の実現に向けて、実効ある基本計画を作っていくたいと考えております。本日も、活発なご意見をいただくことをお願いいたしまして、開会にあたってのごあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局 工藤企画調整部長)

本日は、浅野委員より欠席のご連絡をいただいております。また、久保田委員におかれましては、オンラインでのご出席となっております。

それではまず、資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご確認ください。8種類ございます。一番上が次第、次に出席者名簿、座席表、右肩に資料番号が振ってございます。資料1、資料2、資料3、資料4、最後に参考資料、以上8点ですけれども、不足等あればお申しつけいただければと思います。よろしいでしょうか。

では、議事に入る前に策定のスケジュールについて、事務局からご説明をいたします。

(事務局説明)

- ・資料1 策定スケジュールについて

(事務局 工藤企画調整部長)

ここからの進行は、コーディネーターの森委員にお願いいたします。

(森俊太コーディネーター)

皆さま、おはようございます。それでは、早速議事に移っていきたく思います。本日の議題は3点ございます。すべての議題について事務局から説明をしていただいた後、質疑応答と意見交換を行います。質疑応答と意見交換は、委員の皆様方全員にご発言いただく機会を設けます。オンライン参加の久保田委員につきましても、ご発言をいただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、議事1～3について、事務局から説明をしていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(事務局説明)

- ・資料2 パブリック・コメントの結果報告について
- ・資料3 浜松市総合計画基本計画（最終案）について
- ・資料4 基本計画の参考資料について

(森俊太コーディネーター)

ありがとうございました。多岐にわたる詳細な資料を基に説明をしていただきました。

それでは、これより質疑応答と意見交換をしたいと思ひます。これまで3回にわたってこの検討委員会を開催し、基本計画案について委員の皆さまから多くの意見をいただきました。また、パブリッ

ク・コメントも非常に充実した内容となっております。それらを総合して反映した最終案というのが今回完成いたしました。本日の検討委員会が最後となりますので、今後、浜松市が基本計画を実行していくにあたって、皆様方の期待や要望等、そういったものも含めてご意見といただきたいと思っております。

それでは、名簿の順番に従いまして、恐縮ですがご意見をいただきたいと思っております。時間の関係でお1人3分程度ということでお願いしたいと思います。

まずは、欠席者からのコメントの代読をお願いしてよろしいですか。

(事務局 中村企画課長)

本日ご欠席の浅野委員からコメントをいただいておりますので、代読させていただきます。

浜松市は、人口80万近くを擁し、市域も広い巨大政令市であるので、総合計画で大枠を示し、非常に多数に上る各種個別計画で具体像を実現化する方式にならざるを得ないと考える。その場合、総合計画はある程度総花的になるのはやむをえず、向かうべきベクトルを適切に示すことが肝要で、その点では分野別計画にまとめられているように、バランスの取れた内容になっていると感じる。ただし、巨大政令市であるがゆえに、市民参加型のまちづくりの推進は非常に重要であり、いろいろな分野でNPOや市民団体にとどまらず、個人を含めた市民参加の環境づくりが重要になっていると考える。

この観点から総合計画を見ると、未来ビジョンは「市民協働で築く『未来へ輝く創造都市・浜松』」とされ、「市民協働」のキーワードが入り、基本理念の「(4) 共助型社会の構築」でもボトムアップ等をうたうものの、分野別計画では、参加型まちづくりに係わる施策が抜け落ちている印象がある。分野別計画は、良くも悪くもトップダウン的な行政計画の指針としての総合計画として受け取れる。浜松市が市として、市民参加やそのしやすさをどう準備するのかのスタンスが見えにくいと思う。

以上でございます。

(森俊太コーディネーター)

それでは、本日ご出席の委員の方々からご意見をいただきたいと思っております。斉藤様から名簿の順番に、お願いいたします。

(斉藤薫委員)

資料3の13ページ、産業経済が私の担当だと思っておりますので、将来の理想の姿ということで、「世界経済を支えている」という将来の姿では、当然、世界へ出ている会社はたくさんあります。それを見据えながらの将来の理想の姿でいいのではないかと考えております。

当然、エネルギー、EV関係、AI関係、いろんなものが目まぐるしく変わっていますので、パブリック・コメントにありましたように、毎年次年度以降の事業展開を検証していく、個別計画も毎年策定をして見直しをしていくしかないと思っています。これだけものすごい勢いで変わっている、昨日言っていたことが今日は違うという時代です。

現実、今、商工会議所もそういう対応をしています。ロボットをやっていたり、空飛ぶクルマもセミナーをやると関心があって集まって来たり、そういう意味では、皆さん新しいものにチャレンジし

ていかないと生き残れないという意識はすごくあると思います。それでいいのではないかと考えています。

あと、スタートアップも浜松は非常に充実していると今評価を受けていますので、それを進めていただければと。

また、観光関係では、皆さんご存じのように、浜松も外資の大手ホテルチェーンに入っていく時代になっていますので、それでインバウンドに来てもらいたい。ただ、地元の資本のホテル関係も、この前、売却もありましたけど、地元で頑張っている方々もありますので、そういう方たちも一緒に生き残れるように、観光は観光で何とか頑張っていければと、こういう形でいいのではないかと考えております。

(松島好則委員)

資料を事前にもらいまして、今日までに目を通してまいりました。全体的に、私の専門分野以外のことについてはこういう表現になるのかなというように感じて、全部が網羅されているなという印象を受けました。

その中で1つ、私なりにこの委員会を通して考えたことは、やはり浜松は80万人の政令市でございます。その中で何か1つ、ここだけは全国で絶対負けないよというようなものがあると、もうちょっと面白いかなと感じます。

例えば、農業関係ですと一村一品運動とあって、1つの村、町でこれだけは日本一だよと。近くでは温室メロンが市の産業ですよとか、お茶はここですよとか。そういうようなもの。浜松は170品目という農産物があるのですが、全国で名を取れるのがミカン。ミカンに関しては全国でも有数の産地にはなっておりますが、これも全国一ということではございません。

そう考えていくと、福祉でも産業でもどんな分野でもいいですから、何か1つ浜松が全国に誇れるものを作って、目標をもってやっていくというの、まちづくり、また幸福度ランキングというものも上がるのではないかと考えています。

難しいことは言えませんが、そのような目標的な日本一を目指すというの、1つのアドバルーンかなと私は感じております。

(中村勝彦委員)

全体といたしまして、こちらの基本計画ができてくれば、明るい未来が本当に期待できるかたちになってくると思いました。老若男女問わず、全市民にしっかりと周知し、そこからいろいろな声を聞いて、今後活かしていけるようなものになっていくと、より良いものになるのではないかと考えています。

あとは実際にサービスの利用にあたって、市民の皆さんが使いやすいようなかたちになることが望まれます。

また、子どもこども教育分野においては、少子化対策が最重要課題だと思われまますので、結婚や出産をすることがよいイメージにつながるような取り組みを行っていただけたらと思います。

また、いろいろな方たちがすてきなライフステージを送れるような配慮を期待できる政策を考えていただけたらと思います。

あとパブリック・コメントにも書いてありましたが、子どもの権利条約の批准に伴い、こども基本法が設立され、全てのこどもが大切にされ、自分らしく幸せに成長でき暮らせるように社会全体で支えていく、こども真ん中社会の実現のために、こども大綱に基づき、こども施策が推進されています。

市町村こども計画も検討されていることが書かれていましたので、こどもや若者、子育て世帯、関連機関等の声が実際に反映され、基本計画と同じように、浜松市の全てのこどもたちのための計画になるように、お願いしたいと思います。

また、こども教育分野の人材不足は深刻になってきておりますので、人材確保はもちろんのこと、養成校への入学者も減少し、近隣の市では保育養成課程を終了する大学も出てまいりました。保育サービスの充実に伴い、保育資格者の各サービスへの分散も要因の1つとなっております。サービスの拡充により業務負担も拡大してまいりますので、浜松市ならではの職員の配置基準等の検討をお願いするとともに、民間園の廃園が出ている中で、公立保育園・幼稚園では現状のまま運営しておりますので、民間園では難しい医療的ケア児等の受入れや休日保育等、浜松市のセーフティネットとしての機能を、期待できるようにしていただけたらと思います。

更に小学校就学に向けて切れ目ない対応をするとともに、小学校との接続をしっかりと行えるように、浜松市からも各校に指示していただくとともに、不登校を減少することを目的とした5歳児健診等も、こどもの最善の利益になるように、関連する全ての機関で必要な情報が共有されることを願っております。

浜松市の基本計画に基づいて、有益に市の施策が行われますことを願ひまして、意見とさせていただきます。

(高木邦子委員)

全体像を把握しきれているか自信がないのですけれども、前回お話に上がった政策の抽象度がばらついているというところは、比較的そろってきたという印象がありました。10年後の浜松がこれに沿って、すごく発展的になるといいなと思ったのですけれども、少なくとも教育に関しては、先生方の研修が増えるだけで終わるのではないかという恐れがあります。研修だけでなく実践的な政策の実現という方向に行くといいなという感想を持ちました。

それから、教育とこどもの福祉に関することですが、政策を読んでいて気づいたのが、政策間の乗り入れのお話はどこかで出ましたでしょうか。例えば、こども・教育の基本政策1の政策6のところ、こども・若者総合相談センターというのが、先日、ザザにできたのですが、このセンターは基本政策1の政策6なのですけれども、基本政策2の政策5「こどもの学びや育ちを支える連携・協働」というところとも、乗り入れができるものですか。これは1つの分野の中での乗り入れの話なのですけれども、他の分野とも、文化・スポーツのところは、学校の運動、部活動と乗り入れができるなどか、外国籍児童生徒の問題があるのですけれども、そういった地方自治とも相互に協力できるいいなということ強く感じました。

これを市民に周知するとか、こういう政策で浜松市はやっていくんだと周知する際に、各関係機関がそういった連携が前提で動いていくと、いいのではないかなという率直な感想を持ちました。10年後もたぶん私は浜松にいると思いますので、楽しみにこの先を拝見いたします。

(鈴木まり子委員)

パブリック・コメントをまず拝見させていただきまして、修正するところはしていただいて、反映されていてよかったなと思っています。逆に反映というよりは「ご意見については今後の政策を検討する際に参考にします」というところも、とても多いので、ここで終わってしまわないで本当に参考にしてほしいなど。また、市民の人たちもパブコメに関心を持って、次のときにどう反映していたかとか、参考になったかとかいうところを、きちんと追いかけて行くということも大事かなと思っています。

それから、私の担当は「安全・安心・快適」だと思いますので、「どこでも安全、いつまでも安心、持続可能で快適なまちになっている」というのが 27 ページで、皆さんが市民協働とか連携というのを私も発言させていただいて、それがいろいろなところに記載されていてうれしいなと思っています。

27 ページ「各種団体、関係機関等と連携・協働して災害対応にあたります」ということと、29 ページ「みんなの力で自然災害から生き残る」というところで「地域ぐるみの早期避難や救助救出などの防災活動をつかさどる自主防災隊や NPO などの人材育成を行い、地域防災力の向上を図ります」ということで、私ども NPO ですの、「NPO とともに」というところが記載されていて、私としてはうれしいなと思っています。

ただ、このことがあまり個別計画で、エビデンスというか、指標として明確になっているのがなかなか見つけにくいなとも思っています。具体例とすると、先日、国際課が主催で HICE（国際交流協会）に委託して、外国人の災害支援の第 1 回ネットワーク会議に、私どもも声をかけていただいたり、社会福祉協議会も声をかけていただいたり、危機管理課がスピーカーになったりしておりますので、具体的にはいろんな、先ほど先生がおっしゃったような横ぐし連携って、実際にはでき始めていると感じているので、そういうのは明確に評価として出て来たらいいかなと思っています。

もう 1 つ、分野を越えてというところで、今週内閣府主催の熊本で行われる防災国体に、はままつ na net も出展するのですが、行ってみると NPO を企業がものすごいんですね。そう思うと、防災というのが一大ビジネスになっていると思いますし、そういう意味では産業経済とか、具体的に私どもの企業も、今オートバイマフラーをつくっているところが、床下のチタンシャベルをつくったりして、能登で使ってもらっていますので、防災ビジネス的なものというのは、意外と横ぐしがさせるのではないかと。大学生の若者のプロジェクトも今月から始まりましたので、そういう意味では、政策として横ぐしを指しやすいのが、安全のところの災害かなと思っています。

最後に、私も他の市の審議会の会長をやっておりますけど、当たり前かもしれませんが、この計画はつくるのが目的ではなくて、実現することが目的です。これを誰がやるかという市民がやるんですね。市役所の職員がやると私は思っていないで、今その審議会でも、いつもそれを言っています。市民がやらないと実現しないので、計画をどう市民の人たちに自分事にしてもらおうかというプロセスが、すごく大事ではないかと思っています。そのプロセスに関してしっかりと計画を立てて、そこも NPO や自治会、いろんなところと連携しながら、市役所が頑張るってこの計画を浸透させるのではなくて、いろんな各種団体や、大学などが連携して、浸透するにはどうしたらいいかということから、話し合っていくプロセスの計画が大事かなと思いました。

(野中正子委員)

私が言いたいなと思うことをだいぶ言っていただきました。一番気になっていたのは、この計画って何なのだろうというところで、市で作った計画を、「こんな計画を立てましたよ。皆さんこういうふうにしませうね。10年後はこんなまちにしたいですね。」というのではなく、市民一人一人が実施する、実行できるというような、もう少し具体的な内容が欲しいかなと思いました。

中の文面的については、パブリック・コメントに対しても一応訂正していただいて、内容的にはこれでいいのかなと思ったのですが、全体を通して見たときに、市民がこの計画に向かって進めるのだろうかと考えたときに、これは飾っておく計画ではないんだよな、すぐ実施できるんだよなと思えるような計画になるように、市民にどうやって下ろしていくか、そこまで考えていかななくてはいけないのではないかなと思いました。

それから、こちらの方の計画についても案を、パブリック・コメントを求めるときに、ホームページから見ることできるし、役所に問い合わせればわかるということなのですが、ただ、一般の人でそれをやる人は本当に少ないです。例えば広報で何かお知らせするのであっても「こういうことがありますよ」だけで「その先はホームページをご覧ください。」「どこどこを見てください。」「このマークの所を押せば出てきますよ」とか、できない人はどうすればいいんでしょう。

そのところを、先ほど言いましたように、自分たちのものとして実施するには、そこまで考えて、優しい言葉でお知らせする。考えなくてもわかるようなお知らせの仕方をする必要があるかなと思いました。全般的には、先ほども言いましたように整っていると思います。

それから今、能登の災害が、地震だけでなくその後の豪雨で、また新たな災害が続けて起きてしまった。そういうことは能登だけでなく、これからこちらの方も起こる可能性があるわけですし、そういうときにどう対応するかというのも、先ほどの「みんなの力で自然災害から生き残る」という、その辺が一番大切な分野だと思います。暮らしやすいことも、もちろん大切なことなのですが、その前に生き残らなければしょうがないではないか。

その時に、自分たちがどういう立場にあるのかということ、先ほど言った市民として何をするかと考えたときに、みんなそれぞれこの広い地域の中で土地によって違うんですね。それは防災の関係で研究しているところではわかると思いますが、自分の土地がいったいどこなのか、皆さんは助けてあげる立場になるのか、自分が助けてもらわなければいけないところなのか、どこへ逃げればいいのか、もう少しわかりやすく具体的に、私たちはどういう行動を起こせばいいのかということ、それと、いったい何を備えておけばいいのかというのが、もう少しわかればいいかなというのを感じたんですね。

ただ、総合計画で全体を網羅してやる中で、そこまで具体的なものは無理だと思いますので、その具体的なものを、今後付け加えていって、市民と一緒にやりませうね、こういう10年後をつくりませうねというような計画に、して行っていたらいいかなと思います。

(久保田尚委員)

まず、今回参加させていただいて、全体的な感想からなのですが、非常に議論の全体が前向きで、かつオープンなスタイルを取っていただいています、この計画を作る過程が非常によい雰囲気になっているなと感じました。

内容につきましても、例えば「ウェルビーイング」とか、「幸福を実感できる」といった、明確なテーマが掲げられていまして、それも非常にわかりやすくなっているのではないかと思います。さらにたぶん市の最大のテーマである防災についても、ハード・ソフト、それぞれしっかり書き込んでいただいているので、これも今後10年に関して、必要十分な内容が盛り込まれたのだと思います。

一方、今日パブリック・コメントで出た意見の中で、道路交通に関して2つ大きな強いご指摘があったと思います。1つは地域公共交通の話で、もう1つが交通安全の話だったと思います。まず交通安全については、いわゆるワースト問題というのがあって、これはなんとかしなければいけないのですが、これは一応書いていただいているし、並行で進めていただいている「道づくり計画」の方では、交通安全について強調していただいているので、ここは問題ないと思いますが、ちょっと思ったのは、地域公共交通です。特にバスとかタクシーとか、その辺りについては、もうちょっと危機感を持った表現ができるのではないかというふうに改めて感じました。

その該当の部分を読むと、わりと以前からの、公共交通を充実させるというようなスタンスになっているのですが、いわゆる2024年問題でかなりクローズアップされた、運転手がないとか、今と今後非常にみんな危機感を持って語られる公共交通の維持の問題が、ちょっと薄いかなというふうに感じまして、もし可能であればその辺をご検討いただけるといいと思いました。

(石川春乃委員)

環境分野で、3点ほど意見を申し上げます。

まず1点目です。「環境」がまちづくりの基本理念として掲げられ、「環境」という文字が随所に含まれています。基本計画の最初の項目「(1) 未来へ向けた持続可能なまちづくり」の中に、しっかり「カーボンニュートラル」、「脱炭素に向けた取り組みを推進します」と掲げていただきましたが、浜松市の特色である経済力や長期ビジョンにつなげていくかといったところだと思います。

環境・脱炭素の分野で、既に産業界がさまざまな事業等で実行している浜松市にとっては、今回の基本計画でも更に推進していくことを打ち出すのが、非常に重要だと思います。そうしますと、分野別項目「環境」でうたっている脱炭素経営とかイノベーションとかに加え、「産業経済」の項目にも、具体的には13ページから始まる事業等に、「脱炭素経営を前提とした」とか、あるいは「炭素会計を踏まえた」などの言葉を反映していただくことで、より横断的な、実行力を伴うものになっていくのではないかと思います。

あくまでも「環境」の網羅的な取り組みを形にするためにも、この産業経済の分野にそうした脱炭素等の言葉を踏まえて入れていただくと、より具体的になるのかなと思います。そうすることで、資料4の産業経済の成果指標として、いかに環境行動を実施している企業がたくさんあるかといった数字が示されると、環境行動の具体性も増し、効果的なのかなと思いました。

2点目です。市民が具体的に環境行動を起こせるかが非常に重要です。それを示す指標を設けた方がよろしいのではないかと思います。

資料4の成果指標のところの項目として、5ページの「環境・暮らし」に「カーボンニュートラルの脱炭素社会の実現」として、市域全体の温室効果ガスの排出量についての基準値と目標値を示しているのですが、ここをもし可能ならぜひ企業、いわゆる産業分野での排出量と市民の家庭分野の排出量を分けて、家庭分野でも市民も頑張っているというところが指標として示されるとよろしいのかなと思いました。もちろん、次にあります循環共生型社会のごみ総排出量についての取り組みは、現在大

変精力的に取り組んでいらっしゃるので、これも効果が期待できると思うのですが、やはりCO2排出量という非常にスタンダードな市民活動の評価というのもあるといいなと思います。

3つ目です。4番に「もうかる農林水産業の推進」というのがあります。指標としましては、一農家当たりの農業産出額というのがあるのですが、今この気候変動で、いわゆる緩和策としての、気象災害があったときの対策が、この農林水産業に非常に大きく出ています。特に浜松市ですと打撃も大きいことかと思うのですが、このような自然環境の緩和策が指標で示されると良いなと思います。このような安全・安心が、1次産業の皆さんにも届くような内容にさせていただくと、浜松市が示しているネイチャーポジティブの考え方に、非常に沿った取り組みになるかなと思います。

総じて「環境」といいますと、どこの自治体でもふんわりと全体的に2030年、2050年に向けて頑張ります、といったようなことになって、具体性がなかなか示せていないことがあります。浜松市は、ならではの指標を設けて、それを基に確実に実施していく、といったような基本計画になればと思います。

(北村武之委員)

まずは事務局での案の作成お疲れさまでした。私の拙い経験を基に、お話をさせていただきたいと思います。私が市職員としてエネルギー政策を担当していたときのことで、ちょっと古い話で申し訳ないですが、2011年に東日本大震災がありまして、その時に原発事故があって、大規模集中型の発電所が、地域に根差した分散型で小規模の発電所になるべきだという機運が生まれたんですね。

その時に、浜松市でも市長直轄部隊として「新エネルギー推進事業本部」という組織をつくりまして、私もそこに着任しました。そこで、市においてもエネルギー政策をやりましようと言われましたが、そもそもエネルギー政策というのは国の政策で、地方自治体であまりやっている所もなく、浜松市は先進的に取り組んだ訳です。

市としてエネルギー政策をやりましようと言ったときに、まず何をやったかという、基本計画としてエネルギービジョンというのを作りましようとなつたんです。そのエネルギービジョンはどうかを示していけばいいかというのをみんなで議論しました。分散型電源をたくさん入れていきましようということで、浜松は日照条件がいいので、太陽光を中心に進めて行きましようという話になって、そのエネルギービジョンの中に何のエビデンスもなしに「日本一の太陽光のまちにします」と書いてしまったんですね。

その代わり、書いたからにはそれを実現するために、全国どこもやっていない独自の重点政策も打ちましたし、市の中でできる規制緩和もやりました。そういうことで、結果どうなったかという、日本一の太陽光のまちが実現したわけです。だから、本基本計画でもそういったところの実行性を担保していただきたいと思います。

せっかく基本計画ができましたので、成果指標やアウトカム指標を達成するためにはどうしたらいいか。今後は部の戦略計画や課の実行計画等の個別計画もできますので、そこで、どうしたらできるかということを考えていただきたいと思います。

行政の作った計画というのは、作って終わりとか、絵に描いたもちと言われがちなどころがあるので、職員の皆さんがどうしたら達成できるかということを考えて、基本計画にぶら下がる次の計画なり指標の達成を、確保していただきたいと思います。

(鈴木美枝委員)

全体的に見て幸福感を感じながら、住みやすい、暮らしやすい浜松を目指している計画にはなっているのと思います。

住み慣れた地域で親しい人、いろんな人に囲まれながら暮らして行きたい、いつまでも楽しみを持ち続けたい、介護が必要になっても、できるだけ自宅で暮らしたいというのは、理想の暮らしというか、誰もが願うことなのではないかなと思います。

なので、この計画に記載されている「支え合いによって誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らすことができる」という理想の姿は、前回の計画でも書かれていましたが、とても大事なことではないかなと思います。

ただ、一方で地域を見てみると、高齢者の方が加齢による身体低下が原因で買い物ができない、また通院に困っているというような生活課題を抱えている人や複雑、複合化した課題を抱えているという人は、まだおられる現状があります。

今後高齢化がますます進行して医療や介護のサービスのさらなる需要が見込まれる状況においては、介護制度のサービスだけではなく、住民同士の助け合い・ささえあいも重要になってくるのではないかと思います。

指標を見てみると、家事支援サービス事業を実施している地区社会福祉協議会数が指標となっています。地域住民の方々が、住民同士で助け合いをしようと立ち上がった活動ですので、こういう活動が指標として掲げられることはとてもよいと思いますし、市社協としてもしっかりとそこを推進して、ますます助け合いが進む地域になるように支援をしていきたいと思っています。

見守りや支え合いが広がるということも重要で、そのためには人と人が出会う・つながることから始まると考えます。人と人が出会って知り合うからこそ「大丈夫?」「元気かな」と気にかけてあげることができずし見守る目が広がっていくことにつながっていると思います。見守りや支え合いは一緒の地域に暮らしている地域住民だからこそできることだと思いますので地域住民の方々と計画の目指す姿を一緒に確認をしながら進めていきたいと思っています。

先ほども申し上げましたけれど、複雑、複合化した課題を抱える人、世帯の状況を見ていくと、地域とか社会から孤立した状態である方がとても多いのが現状です。誰にも相談することができないから、いろいろな問題が積み重なって絡み合ってしまうと大変な状況になってしまっています。誰かに「助けて」と SOS が出せるような地域になっていくことがとても重要だと考えています。

そこを解決していくためには、専門職、専門機関だけで連携して支援するだけではなく、もう一度社会、地域とつなぎ直すことや、もう一度地域の存在となれるようにするため、差別や排除のない地域づくりも一緒にしていかなければいけないですし、お互いを認め合えるような社会や地域をつくる必要があると思います。

また、パブリック・コメントの「こども・教育」のところで、こどもの権利についてのご意見がありました。全ての人の権利を守る・権利擁護も、幸せな暮らしというところにはつながっていくのかなと思います。

今回の計画は最上位計画となってきますので、目指す姿が書かれていると思います。しっかりと計画を確認しながら市民の皆さんや企業の皆さん、行政の方など様々な方々と連携や協力をしながら取り組んでいけたらいいと思いました。

(尾島俊之委員)

全体としていい計画ができたかなと思います。3点、長期的な効率性というのと、職員の元気というのと、PDCAの3つを指摘したいと思います。

今回、目指す方向ですとか実施内容の大枠ができて、これに沿って進めるといいと思いますが、具体的なところは状況の変化に応じて、臨機応変に創意工夫することが必要なと思います。

今の財政状況から考えると、効率性というのが求められる時代になっているのですが、効率性って何だろうかと考えたときに、短期的に考えると無駄なことをしないで、決めたことだけをしっかりとやって行くのが効率性かなと思われがちになるのですが、一方で長期的に考えて、いろんな新しい課題ができたりとか複雑な課題が出てきたときに、それだとたぶん効率的に対応できないんだろうと思います。

長期的に考えると、いろんな分野の人と雑談したりとか、のりしろがあることが一番効率的に解決できることにつながったりするのではないかということですか、次に述べる職員の元気とか、そういうのが効率につながるのではないかと思いますので、長期的な効率性を目指しながら、この計画を実施していただけるといいなと思います。

2番目の職員の元気ですが、職員の皆さんが元気だと、たぶん市民にも感染して市民も元気になるし、職員の皆さんがあまり元気でないと、市民も元気でなくなるのではないかと思いますので、まずは職員の皆さんが元気にいろんなことをやっていただくことが、ひいては市民全体の幸福につながるのではないかと思いますので、その根幹として、職員の皆さんにいろいろ元気に創意工夫をして頑張っていたいただきたいと思います。

最後、PDCAなのですが、今回これで計画ができて「P」ができて実施してということで、その後チェックをして、いろんな評価資料を見ていくと思いますが、PDCAで一番難しいのが「A」で、その結果を受けてどうやって改善していくかというところではないかと思います。

この計画を実施する中で、単に数字を確認するだけではなくて、やり方などもチェックしていただいて、どういうふうに改善していこうかということを常に考えながら、改善していただければと思います。

ということで、“やらまいか”精神で新しい時代を切り拓く、先頭に立つ浜松市になっていただければと思っていまして、それにつながる計画ができたと思いますが、この先上手に運用して実施できればと思います。

(池田孝行委員)

まずはここまで計画を作り込みいただきましたご関係の皆さまに、深く感謝申し上げます。

今回、健康・福祉（産業経済）の分野を担当させていただきました。私からは2点意見を申し上げます。

まず、本計画がアフターコロナでの作成となったため、明るい未来につながる計画になったことを大変うれしく感じております。そして今後は、市民のみなさまがこの計画に理解・共感いただき、市民によって主体的に進めていくことが非常に重要だと思っています。私も仕事柄行政の計画に目を通すようにしていますが、恥ずかしながら本計画はあまり存じ上げませんでした。周りにも読んだことがあるという方はあまりなく、「WHY（なぜ必要なのか）」を計画の中で伝えるべきなのではないか

と感じました。輝く未来を担う世代にこの計画を広める際には、「なぜ私たちがこれを計画し、そして推進しなければならないのか」を一緒に伝え、共感を得る必要があると感じています。

2点目として、浜松市は産業、農業、観光、文化など、非常に豊かな資源が多く存在する、全国に誇れる地域です。また一方で、現在聖隷の健診データを活用したビッグデータ分析が行われています。このデータは、若い健常時からの問診・検査データを膨大な人数かつ長期間、高い精度で保持・管理されている点において、全国でも類をみない事例です。この貴重なデータの分析と、先述の浜松の豊かな資源を組み合わせることにより、浜松市独自の予防医療サービスが創造されることで、地域経済の活性化や、市民の方々の社会的なつながりが醸成される施策が実現できればよいのではないかと大変期待をしています。

最後になりますが、あと数年後には団塊の世代の方々が80歳を超え、本格的に介護需要が伸びていくことが想定されています。今回策定される全方向的な基本計画の推進により、介護が必要な高齢者の方を減らすことで現役世代の方の負担を減らし、さらに浜松市の魅力を輝かせることで、市民の皆さんが心から幸福を感じるまち浜松の実現へとつながるよう祈念しています。

(笹原恵委員)

事務局が力を入れてくださって、非常にいい総合計画ができたこと喜んでおります。大変感謝申し上げます。

一方で、パブリック・コメント、こちらを見せていただいたのですが、意見提出者が120人、2団体ということで、意見数も352件と非常に市民の関心が高く、なかなか総合計画基本計画に市民の皆さんが目を通す機会も、そんなに多くはないと思うのですけれども、非常に関心が高かったということについて、非常に素晴らしいなと思いました。

一方で、皆さんからもご発言がありましたけれども、なかなか難しいのが横糸をどう通すのかということで、特に今回のパブリック・コメントの中では、例えば子どもの権利の問題がありますけれども、おそらくこどもというところだけに書き込んだのでは不十分で、全体に関わってくると思いますし、私の近くでもこの基本計画を読み込んで、パブコメを出したいという市民団体がいくつかあるのですけれども、例えば男女共同参画ということという、暮らしのところには入っていますけれども、考えて見るとジェンダーもこどもも、全体に横ぐしとして差さなければいけないようなことなので、全部それを書き込むと、とても重たくなってしまうとは思いますが、何かしらそういう横ぐしについて、忘れないような何か手だてというのは必要かなと思いました。

もう1点、パブコメの中で発達障害についての問題提起がありましたけれども、基本計画の中では障害がある人、あるいは障害を持つ人というかたちで、比較的きちんとというか、認定を受けた人についての取り扱いというのははっきりしていますけど、大学でもある意味グレーゾーンの、生き難さを抱えているこどもたちがたくさんいて、まさにこどもまんなか社会ということを見ると、そういう生き難さを抱えているこどもたちのケアは非常に重要で、おそらく教育委員会でもだいたいそういう学級等を手厚くしていると思うのですけれども。そういったことについては、もう少し入ってもよろしいかなと思いました。

もう1点、私が担当しています「文化・スポーツ」というところで見ると、担い手の養成ということをきちんと位置づけていただいて、文化財を残しつつないでいくために、専門家の養成は非常に重要ですので、そういった点では非常によかったかなと思います。

ただ、この辺りも子どもに関わるもの、あるいは地域に関わるものとしては、地域の文化、特に浜松は非常に大きな銅鐸（どうたく）が出ている東の端のところでもあり、歴史的にも非常に意味があるのですけれども、そういったことに子どもたちが触れることによって、地域の歴史を学び、地域に誇りを持つような、そういったことがうまく入るといいなと思えました。

最近、学校の教員の多忙化ということもあって、地域でスポーツ振興ということもあって、たぶん自治会等も中心になって、相当てこ入れをしてくださっているということで、そういう地域を育てるという観点が、もう少し入っているとよろしいかなと思えました。

文化のところ 53 ページでは、地域総がかりによる文化財の保存・継承と活用ということで、無形民俗文化財の保存ということも入っているのですけれども、まだそういう文化財指定になっていないようなことであっても、相当地域がつないでいることが多いので、地域への目配りというのは、おそらく自治会の方々からまたお話が出ると思いますが、入ってもいいのかなと思いましたが、今回の区再編ということを見ても、単に区が3つになっただけではなくて、旧来の区が地域としてきちんと位置づけられていて意味を持っていたり、あるいはコミュニティ協議会というのが立ち上がったたりしていますので、その辺りへの目配りがあると、より浜松らしさが出るかなと思えました。

基本計画は10年間の計画ですので、ある種旗印として掲げ、何かあったときにそこに立ち戻ることができるようなものなので、なかなか注文ばかり言って申し訳ないですけれども、重要な点をきちんと書き込んでいただいて、後からこういうこともあったんだと立ち戻れるようにしていただければと思います。

（吉田早織委員）

まず、これだけおまとめいただきありがとうございます。どのようになっていくのかと当初思っておりましたけれども、全体としまして、改めて心身、社会、この社会には経済、環境、安全等含まれますけれども、これらが健康である、健全であるという状態が、浜松が目指すウェルビーイングのまちづくり、市民が幸福感を感じるというところのベースであると思えますので、10年後の社会により良いバトンをつなぐという意味で、この計画の重要性というのが、本当に今身に染みて感じているところです。

そしてこの総合計画、皆さんがおっしゃっているように、いわば総論のようなお話で、個別計画で具体的に実施していくということなろうかと思いますが、私の担当しております「文化・スポーツ」のところでは、指標の資料のこれで見ますと、特に「する」「みる」「ささえる」でまちを元気にするスポーツの推進というところで、成人の週1回のスポーツ実施率を上げるとか、成人のみがここに記載されておりますが、これが本来であれば、誰しも、インクルーシブというところが今回のテーマでもありましたので、なんとかこの指標が子どもであったり、障がい者であったり、いろんな方を含むことが難しいかなということを感じております。

これはまた具体的話になるかと思えますけれども、健康づくりに関しましては、今活動していかなければ10年後の健康というところに大きな影響がございますので、特に子どもたちには授業間の休みであったり昼休みを、教員の負担を増やすことなく、外遊びを増やすとか身体活動を増やすというようなことを、政策的に実施できることが望ましいと感じているところです。

そして、これも他の方々もおっしゃっていますが、これをいかに市民を巻き込んで行うかということでの、発信力というところが重要だと思っております、今本当に情報過多ですので、浜松市の

ここのページ、ここのサイト、このLINEの投稿、これだけを見ていれば私は大丈夫と言えるぐらい、ここに網羅されているような内容が、個別に必要な情報が配信される、届くというような形を何とか模索していただけないかなと思いますし、現在、「健康はままつ21」についてホームページで公開されていますが、今年の5月に掲載されているのですけれども、市民の“やらまいか”、団体の“やらまいか”、行政の“やらまいか”というようなかたちで、誰が何をすべきなのかということが明確に記載されており、これは本当にわかりやすいと思っております。このようなかたちで周知がされていくことが好ましいかと、個人的には感じております。

そして最後に、資料3の12ページ、1ダースの未来のところなのですが、ピッキーな見方かもしれませんが、1ダースの未来の11番目に、かえる「住まい方」、まちだって、スリムになりたいという言葉があるのですが、現在ルッキズムという観点からいいますと、スリムがいいのかという価値観もあつたりしますので、こういった表現がどうなのかなと思ったり、9番「老い方」、受け止めるとそのままの言葉なのですが、何かもう少しいい言葉がないかなと感じました。

そしてその下の各分野に各番号を当てはめておりますが、これだけでは網羅できないと思います。例えば「文化・スポーツ」の部分でも、8番の「育む」子育て・教育にも関連してくるところもあるかなとも思いますし、このように主なところをはめてはいるとも思うのですが、すべてうまく当てはめるということを優先する必要があるのかなというふうに感じますので、この表記の仕方も何か違った形で工夫していただけると、コンセプトがより伝わるのかなと思います。

(森俊太コーディネーター)

名簿の順番だと私なので、私から簡単に、2つお話をさせていただきます。

1つは簡単に、ちょっと間接的な話ですが、この計画というのは浜松市の一自治体の計画ということで、非常に内容はよくできたなとは思いますが、浜松市というのは孤立しているわけではなく近隣の地域、そして国と世界とつながっているということなので、この計画を実施していくにあたっては、世界情勢、国の情勢等の変化を踏まえて、実施していかななくてはいけないなと思っておりますので、関係者の方々には、そういった広い視点があるということを前提に考えながら、この計画を実施していくといいかなと思っております。

特に人口がどんどん減っていくというのはもう避けられないことなので、今後長いスパンで考えると、他の自治体との連携というのにも必要になってくるのかなと。浜松市は中核都市で非常に実力はあると思いますけれども、そういったことも考えていく必要があると考えております。

もう1つは、計画というのは完全ではないと思いますので、さまざまな指標等がありますが、実施していくうちに修正とか、これはちょっと実現できないとか、社会変化の中で出て来ると思われますので、それは真摯に受け止めて、できないことがあればそれを情報公開をして、さまざまなステークホルダーと言うんですか。関係者、市や企業の方々や、市民の方々、いろんな団体と協力しながら、うまくいかないときもその情報を公開してお互いに直していくという、そういった姿勢が大事なのかなと思っております。

先ほど職員の方々が元気であるとうまく行くというお話もありましたけど、あまり硬直化せず、風通しのいい形で、組織で進めて行っていただけるといいかなというふうに思っています。そのキーワードとなるのは情報公開なのかなと考えております。

以上2点、すみません、簡潔な話でありました。

(廣野篤男委員)

いつも申し上げていることですが、市と自治会は最大のパートナーだと私は思っております。まちを動かす両輪のようなものでございます。自治体と行政が二人三脚で進んで行くことが、お互いの発展や住みよいまちづくりにつながるのだと思っています。

自治会のことは、直接的には「環境・くらし」分野に記載されていますが、自治会は地域の中核として、まちづくりのさまざまな分野に関連して活動しております。市には自治会への支援と市民に対する自治会活動への理解を広めることに、積極的に取り組んでもらいたいと考えています。

自治会を通じて、幅広い世代の方に地域活動に関わってもらうことが重要でございます。浜松市の自治会加入率は9割を超えています。他都市と比較して大変高いものでございますが、全国的に自治会加入率は減少傾向にございます。自治会役員が高齢化していく中で、特に若い世代に自治会活動に参加してもらえるよう、市と自治会が協力していく必要があると思っています。市には自治会活動への理解をさらに深め、自治会と互いに協力し合いながら、基本計画を実行していただきたいと思いますというふうに考えています。

(東博暢委員)

非常に取りまとめもきれいにまとまりまして、皆さまお疲れさまでございました。パブリック・コメントもいろんな意見をいただきまして、反映できることは反映されていて、ぜひ参考だけにとどまらず、次の検討の材料にいただければと思います。

私の担当のところ「地方自治」のところですけども、この中で若干気になったのが、「次世代を担う若者」みたいなキーワードを入れていただきたいなと思ったところです。女性とかいう言葉は結構入っているのですが、「若者」の言葉が減っているみたいところで、こどもの領域だけでなく、10年後のその頃にはもう社会で活躍している中核の方々になっているでしょうから、そういうところは重要ななと思います。

全体的に計画を出した後の話が特に重要で、こういう政策のアウトリーチをどうするかというのが、日本政府も含めて苦手なところなので、今おっしゃっていた自治会加入率がすごく高い地域ですから、これをどうやってアウトリーチして行って、市民一人一人がアクションを起こせるかといったところに力を入れていただければなと思います。

特に市民がぱっとイメージしやすいのは、1つキーワードは時間かなと思っていて、アンケートの指標のところにもありましたけど、心が安らぐ時間を持つことができるのかとか、時間をどういうふうに費やすかという、これは浪費なのか消費なのか投資なのかという話がありますけれども、より豊かな暮らしをするためには、付加価値時間をあげていくといった取り組みで、全て語れるのではないかと考えております。70万人いますから、1人1分使えば70万分できますから、そういう形で1人1人でできること、浜松のために少しでも考えてくださいというような形のメッセージも、市民の方に出していければいいのかなと思います。

全体的には、今後10年後の話になってくると、特に昨今、経済安全保障の話だとか気候変動とか、ここ2年ぐらいでかなりひどくなってきているとあらゆるところで話を聞いている。ネイチャーポジティブの話とか、気候変動の話になってきて、これは日本でも既に起こっていますけど、あらゆる地

域で一次産業の農産物、漁業に関する収穫も変わってきているということなので、結構構造的にこの気候変動はかなり地方にインパクトを出すのではないかと。

その中で今後 10 年、ここ 2、3 年でこういう状況ですから、10 年を考えたときに気候変動の問題だとか、技術革新は同時に進みますから、この辺りも的確に捉えつつ、持続的な地域経営をどうするのかといった観点は、常にアンテナを張っておく必要があるのかなということを感じます。

ネイチャーポジティブというキーワードも入っていますから、昨今カーボンだけでなく、生物多様性で TNFD みたいな世界的な議論もされていますので、これは経済にも関わる話ですから、ちょっと広い目で今後浜松市を捉えていくと、結構いろんなチャンスがある。そういう地域のアセット資源を最大限活用して、未来に投資をするという運営をしていただくといいのかなと思います。

何よりも今後こういう計画を推進する職員の方々は大変ですから、職員の方も健康にということ、結構職員の方々のコメントも書かれていますけれども、やはり行政を担うスタッフの方々が元気でないと、地域も元気になりませんので、ぜひそういうところもケアしていただきながら、進めていただければなと思います。

(森俊太コーディネーター)

ありがとうございました。皆様方からそれぞれの専門を踏まえた、非常に役に立つ貴重な意見やご感想をいただきまして、ありがとうございました。それでは、これで本日の議事を終了いたします。進行を事務局にお返しいたします。

(事務局 工藤企画調整部長)

ありがとうございました。

それでは、最後に委員長の中野市長から、改めて委員の皆さまへお礼のごあいさつをさせていただきます。

(中野祐介委員長)

冒頭申し上げましたとおり、今日この基本計画検討委員会は最終回ということでございます。本日も大変熱心に貴重な熱い思いを含めたご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。これまで 4 回にわたりまして、皆さまには多大なるご協力をいただいたことを、改めて厚く感謝を申し上げる次第でございます。

本日も皆さまからいただいたご意見については、しっかりわれわれの方で検討させていただきまして、基本計画の最終案ということで、これからまとめてまいりたいと思います。まとめました最終案については、来る 11 月の市議会に議案として提案をいたしましてご審議をいただくという流れで考えております。

本日も多くの委員からご指摘いただきまして、こういった計画を作ることも重要なのですけれども、いかに実行をしていくか、実現をしていくかというのもまた、重要なことになるわけでございます。今回作りましたこの計画、今後 10 年間の浜松市のまちづくり、また浜松市の市政運営の大変重要な指針となるものでございます。これをベースといたしまして、個別計画なども含めてしっかり実現していくことによって、市民の皆さんとともに、「元気なまち浜松」をつくっていきたいと思っております。

今回この基本計画の策定にあたりまして、ご協力いただきました委員の皆さまには、この先10年もまたさまざまな形で、ご意見、ご支援をいただければと思っておりますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

今回は大変お世話になりました、本当にありがとうございました。

(事務局 工藤企画調整部長)

この基本計画の策定にあたりまして、大変なご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

では、これもちまして、第4回浜松市基本計画検討委員会を閉会させていただきます。